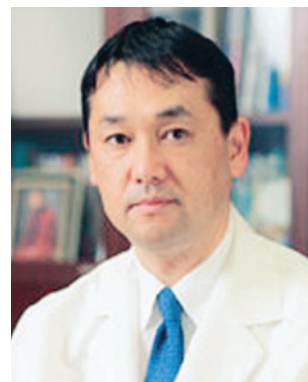




附属病院正面玄関のクリスマスツリー



地域医療連携センターのご紹介

地域医療連携センター長 森野 禎浩

1. 設置の経緯

本学では、地域医療への貢献の理念の元、地域医療連携室の設置や地域連携パス稼働など、地域医療機関との連携を進めてまいりました。しかし、院内の地域医療連携に関する組織が別々であることや、ベッドコントロールが不十分であることなどの課題があり、平成26年10月、地域医療連携の更なる推進を図るため外来棟3階に地域医療連携センターを設置いたしました。

2. センターの目的

センターの大きな目的は以下のとおりとなります。

(1) 患者紹介率の向上並びに病床稼働率の向上を図る。

- ① 地域の医療機関が紹介し易い仕組みの構築
- ② ベッドコントロールや退院調整による病床稼働率の向上

(2) 患者サービスの向上を図る。

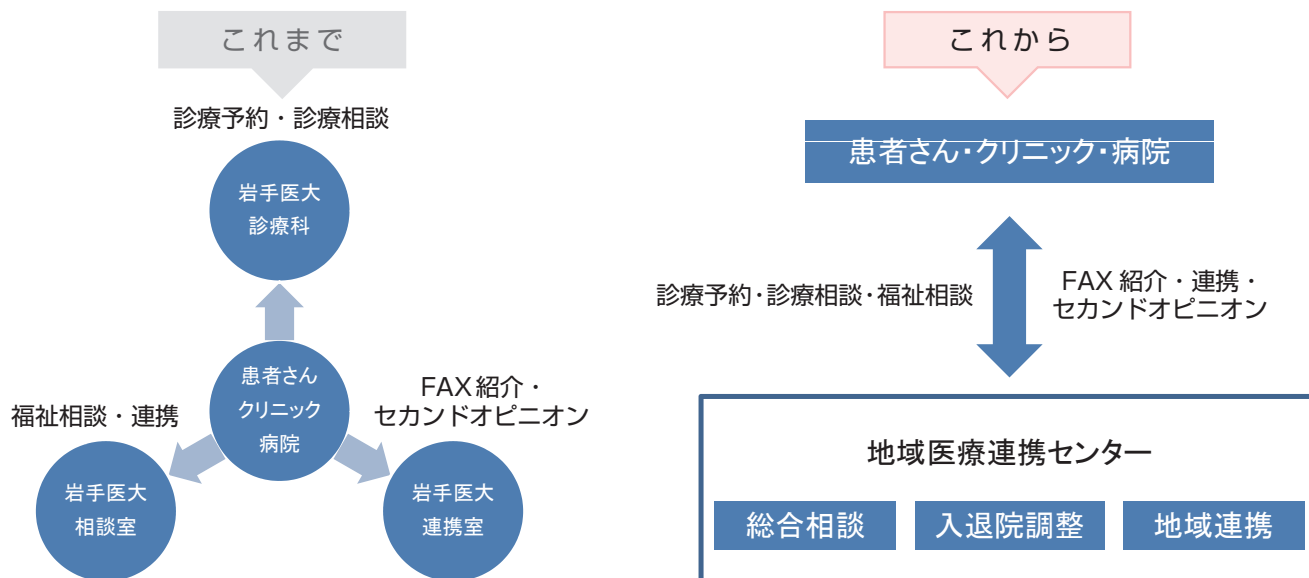
入退院にかかる情報提供と相談窓口を一元化（ワンストップサービス）

(3) 医療従事者の業務負担軽減と効率化を図る。

入院患者の事務処理業務の一元化によるスタッフの業務負担の軽減

このように、センター設置により、患者さんや他施設からのアクセスは簡潔かつ明確になるだけでなく、病院にとっても大きなメリットが期待されております。

窓口の一元化



3. センターの主な業務

(1) 地域医療連携関係

- ① 医療連携システムの構築
- ② 紹介患者受付、返書管理
- ③ 連携パスの整備
- ④ 広報誌の発行、研修会等の企画・立案
- ⑤ セカンド・オピニオンの実施 等

(2) 入退院調整関係

- ① 退院調整、転院調整
- ② ベッドコントロール(次年度以降活動予定) 等

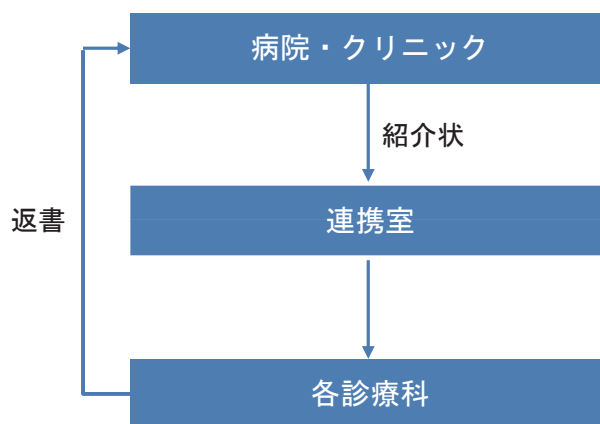
(3) 総合相談関係

- ① 一般、がん、難病、認知症、在宅療養等の相談
(当面、医療福祉相談室で対応)
- ② 受診、薬剤、栄養、看護相談
(次年度以降活動予定) 等

4. 紹介状の管理及び返書の管理

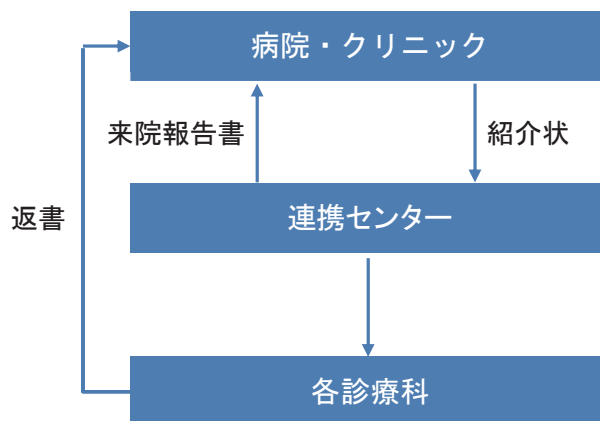
(1) これまで

- ・連携室では紹介状FAX受付業務のみを行っている。
- ・返書の管理が不十分だった。
- ・紹介元医療機関では、来院報告がなく紹介患者様が受診したことがわからない。



(2) これから

- ・すべての紹介状を連携センターで把握する。
- ・受診当日もしくは翌診療日までに、来院報告書を紹介元病院へFAXにて送信する。
- ・返書を徹底するため、未返書の管理を行う。



5. 終わりに

今後、ますます進む高齢化社会に向けて、国は地域包括ケアを推し進めております。医療機関においては機能分化や介護との連携が求められているなかで、当院においても、これまで以上に地域の医療機関や介護事業所との連携を進めていかなければなりません。その中心的な役割を担うため当センターが設置されました。まだまだ人員体制が整っていませんが、今後随時業務を拡大していく予定ですので、職員の皆様におかれましては、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ボイラー安全祈願祭が行われました

11月7日（金）、西病棟地下1階ボイラー室において、ボイラー安全祈願祭が行われ、本学関係者約20名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上・清祓いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。



このボイラー安全祈願祭は、ボイラーデー（旧称：汽缶祭）にちなんで毎年行われているもので、鞆（ふいご）を用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日になると鍛冶場を清掃し、火の神に感謝する習わしがあったことから、11月8日をボイラーデーと決めました。

なお、本学のボイラーデースローガンは、「慣れてても気持ち緩めぬプロ意識」です。

図書館主催イベント「Library+」が行われました

11月18日（火）、矢巾キャンパス（内丸キャンパスにもTV会議配信）にて、図書館主催のイベント「Library+」が行われました。



第1回目となる今回は、「著作権って？」をテーマに、図書館事務室の職員が著作権の法的定義や侵害の恐れのある著作権に付随する各種権利などについてのセミナーを行いました。

Library+で行われたセミナーの資料や今後のイベント情報は図書館ホームページにも掲載しています。
(<http://www.lib.iwate-med.ac.jp/LP.html>)

次回は、来年2月に「英字新聞でエコバックを作ろう！」をテーマに開催予定です。

がんプロ国際シンポジウムが行われました

11月21日（金）、創立60周年記念館9階講義室において、がんプロ国際シンポジウム「がんプロから考える日本発の国際貢献」が行われ、教職員や大学院生、医学部生が参加しました。



がん診療は地域医療の充実が求められる一方で、世界的な規模での治療開発や均てん化のため、専門医は地域から世界まで俯瞰する力が要求されています。このシンポジウムはがん診療の各国の制度の違いや、診療上の問題点について議論し、理解することを目的に、日本でがん研究に携わる海外の若手医療者（エジプト（写真上）・インドネシア・中国・スコットランド）による講演及びディスカッションが行われました。

今回は、婦人科がんを例に挙げ、本学からは産婦人科学講座 小山 理恵 特任准教授、小島 淳美 講師が司会となり、議論のコーディネートを行い、各国における医学教育・研修・医療偏在などの課題についての活発な意見が交わされました。

この模様は、TV会議システムを通じがんプロ連携大学にも同時に配信され、国際的ながん診療の充実へ向け日本での在り方について、議論が行われました。



第24回岩手医科大学医学教育ワークショップが行われました

11月21日（金）・22日（土）の両日、メイン講師として、教育研修の第一人者である大阪大学教育学習支援センター佐藤浩章先生、オブザーバーとして岩手大学教育推進機構江本先生を迎えてホテル安比グランド（岩手県八幡平市安比高原）において、第24回岩手医科大学医学教育ワークショップが行われ、今年度助教として採用となった医学部の教員19名が参加しました。



今回のワークショップは医学教育学講座が担当となり、学生の学修をより一層促すために、よりよい授業のデザイン方法と基本的な授業方法を学ぶことを目的としています。現在各自が担当している、もしくは担当予定の授業科目についてシラバスを作成（修正）し、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験しました。

参加者は、授業計画を立案した後、各自15分間の模擬授業を実施することで、必要とされる能力を身につける良い機会となったようです。



吉本興業から講師を招いて木の花会講演会が行われました

11月26日（水）、歯学部4階講堂において、木の花会（岩手医科大学看護師の互助会）主催の講演会が行われました。

「吉本新喜劇から学ぶ笑いのコミュニケーション」をテーマに、吉本興業よりWまこと（中山 真 氏・中原 誠 氏）をお招きしました。両氏は、放送作家であると同時に

に吉本興業コミュニケーションお笑い研修プログラム講師であり、現在、笑いを通じたコミュニケーション術について、全国各地で多数講演している方です。



講演会では、軽快かつテンポの良い話に参加者は一気に引き込まれ、医療コミュニケーション術について楽しみながら学ぶことができました。



岩手県臨床研修病院合同説明会が行われました

11月28日（金）、矢巾キャンパス多目的ラウンジにて、岩手県臨床研修病院合同説明会が行われました。

この説明会は、岩手県内での初期臨床研修を広く医学部学生にPRするために行われ、本学附属病院の他岩手県内11の基幹型臨床研修病院と青森県・秋田県がブースを設け、医学部の学生約100名が参加しました。

各病院の窓口は研修医や指導医が担当し、参加した学生にとって色々な情報を先輩医師から直接聞く良い機会となったようです。



岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

平成26年6月から始まりました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第1回目の御芳名紹介です。(平成26年6月1日～平成26年10月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (19件)

- <50,000,000円> ㈱こすかたサービス (盛岡市)
<20,000,000円> ㈱こすかたサービス (盛岡市)
<5,000,000円> 医療法人社団 恵仁会 (盛岡市)
医療法人あさひ会 おだか医院 (宮城県気仙沼市)
<1,000,000円> 医療法人 周凜会 (釜石市)
医療法人 曉会 田辺整形外科 (大阪府大阪市)
医療法人 育成会 育成会内科小児科 (青森県十和田市)
医療法人 秀誠会 下遠野内科胃腸科クリニック (福島県いわき市)
<500,000円> 医療法人社団 千裕会 紫桃内科医院 (宮城県石巻市)
<300,000円> 医療法人 宇根本会 にいつクリニック (岡山県浅口郡)
医療法人 小沢眼科内科病院 (茨城県水戸市)
<100,000円> 医療法人 誠人会 斎藤内科 (久慈市)
医療法人 小笠原内科クリニック (釜石市)
医療法人社団 仁静会 音羽歯科クリニック (静岡県静岡市)
<御芳名のみ掲載> 医療法人 内丸会 野々口整形外科 (青森県八戸市)
医療法人社団 平田皮膚泌尿器科医院 (北海道函館市)
医療法人 豊島医院 (宮古市)
医療法人 徳政堂 佐渡医院 (岩手郡)
医療法人 結城クリニック (宮城県仙台市)

(受付順、敬称略)

●個人 (166件)

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| <10,000,000円> | <100,000円> | 太田 広美 (歯23) |
| 亀井 正明 (医7) | 小笠原 真弓 (医32) | <50,000円> |
| <1,200,000円> | 小笠原 眞 (医31) | 満川 元貞 (医45) |
| 杉原 千恵 (元職員) | 普和 良吉 (歯15) | 長崎 昭憲 (歯3) |
| <1,010,000円> | 清水 良美 (父母) | 加藤 延功 (父母) |
| 吉田 和夫 (父母) | 千葉 育雄 (医42) | 金丸 寿男 (専14) |
| <1,000,000円> | 能戸 清 (医1) | <30,000円> |
| 高橋 肇 (医33) | 徳泉 澄子 (医51) | 杉山 一雄 (父母) |
| 山田 宣郷 (父母) | 日野 忠臣 (医7) | <20,000円> |
| 山元 一俊 (父母) | 前田 和彦 (医50) | 大川 真理子 (医29) |
| 石川 洋子 (医18) | 西川 真史 (医31) | 臼井 みなみ (医31) |
| 佐々木 勉 (医28) | 八重樫 由美 (教職員) | <10,000円> |
| 大泉 晴史 (医21) | 久保田 文吾 (父母) | 鈴木 正典 (父母) |
| 小田島 祥司 (医24) | 小野寺 勲 (役員) | 遠藤 芳彦 (医36) |
| <300,000円> | 堀内 健二郎 (専17) | 佐藤 誠剛 (父母) |
| 杉山 浩隆 (医28) | 森川 直人 (教職員) | 佐藤 良明 (父母) |
| <200,000円> | 李 民男 (父母) | 櫻井 末男 (医1) |
| 酒井 泰彦 (父母) | 豊田 章宏 (医35) | 佐々木 正明 (父母) |

佐々木 真 (父母)
菅原 清孝 (父母)
外館 明彦 (父母)
高田 恒弘 (歯27)
亀山 周郎 (歯18)
佐藤 英一 (教職員)
小野 清毅 (父母)
黒田 裕久 (医33)
青柳 利紀 (教職員)

<御芳名のみ掲載>

吉田 彰英 (歯25)
山本 覺 (医28)
小田桐 忠雄 (父母)
千葉 徹 (医33)
佐藤 湍 (専17)
奥津 一俊 (父母)
松村 猛 (歯14)
橋本 誠紀 (医35)
齋藤 順子 (医31)
佐藤 良友 (医8)
上村 信博 (歯16)
服部 正美 (父母)
工藤 隆弘 (医33)
荒 麻衣子 (歯42)
半井 孝幸 (父母)
盛山 正仁 (父母)
黒田 直人 (父母)
片山 辰郎 (父母)
山口 智 (医36)
熊本 亮 (医11)
大高 貞男 (医7)
木暮 淳志 (父母)
横堀 寿光 (父母)
齋藤 元一 (父母)
飯島 仁 (医18)
和田 守一 (父母)
井上 聡彦 (父母)
三木 康行 (医51)
中野 勇治 (父母)
大沢 久人 (名誉教授)
近藤 弓子 (医33)
谷藤 泰寛 (医16)
沓澤 大輔 (医55)
移川 哲 (父母)
鄒 鵬 (教職員)
今 沙織 (医60)
松本 忍 (父母)
吉村外 茂二 (専17)
佐々木 志津夫 (父母)
佐々木 純 (名誉教授)
佐藤 喜隆 (父母)
森若 治 (父母)

齋藤 聡 (歯12)
下田 靖行 (父母)
齋藤 徳郎 (医53)
西村 宜倫 (父母)
川越 じゅん奈 (歯34)
吉金 秀樹 (父母)
塩浦 緋佐子 (医11)
中村 和夫 (父母)
後藤 尚 (医20)
日下 純男 (医14)
村上 正 (父母)
伊藤 浩司 (医41)
佐々木 保 (歯4)
佐藤 護人 (医18)
佐藤 雅子 (医18)
藤島 幹彦 (他35)
植田 修 (医33)
山内 広平 (教職員)
佐藤 洋一 (父母)
町田 克一 (父母)
三村 尚 (医21)
大沼 俊美 (父母)
近野 美穂子 (父母)
石井 隆志 (医11)
及川 優 (医15)
平田 千賀子 (歯24)
角谷 文祐 (医21)
室月 譽 (医5)
椎野 萬里子 (医20)
椎野 泰明 (医20)
藤澤 啓一 (父母)
塩澤 千代 (歯5)
中村 豊 (教職員)
佐藤 健一 (父母)
細江 信也 (父母)
正垣 貴司 (父母)
黒岩 義之 (他32)
五十嵐 大樹 (教職員)

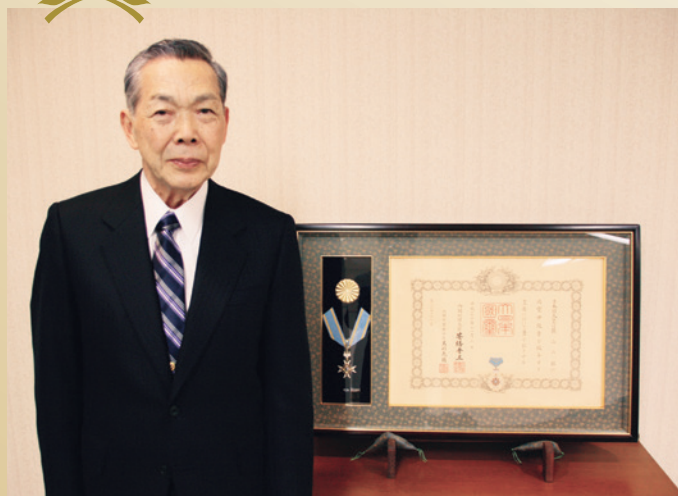
菊地 善紀 (父母)
長谷川 良昭 (父母)
野崎 好平 (父母)
亀田 敏幸 (父母)
熊谷 映治 (父母)
畠山 早織 (在学生)
大江 徹 (父母)
西谷 直之 (教職員)
秦 和宣 (父母)
古町 克郎 (教職員)
加藤 真 (父母)
箱崎 文志郎 (歯2)
福井 元 (医48)
菊島 一仁 (父母)
岡本 秀樹 (他40)
平井 東英 (歯14)
佐藤 朗 (医30)
小高 京子 (歯10)
芳沢 恵美子 (父母)
古和田 浩子 (教職員)
向井田 春海 (医35)
小玉 真夫 (医7)
佐々木 明德 (医34)
本間 信 (父母)
藤井 良耕 (父母)
後藤 淑子 (父母)
小堀 理紗 (医60)
石川 忠夫 (医20)
吉村 篤 (父母)
柏崎 潤 (歯19)
中西 真弓 (教職員)
三浦 邦彦 (父母)
藤井 久丈 (父母)
柿坂 伸子 (医23)
(受付順、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭陵会	114	48,980,000
在学生ご父母	100	13,105,000
役員・名誉教授	4	450,000
教職員	21	3,977,000
一般	6	1,300,000
法人・団体	25	89,000,000
合計	270	156,812,000

(平成 26 年 10 月 31 日現在)



關山 三郎 名誉教授が「瑞宝中綬章」を受賞しました



本学名誉教授の關山 三郎 先生は、平成26年度秋の叙勲において瑞宝中綬章を受賞しました。

關山先生は、昭和37年3月東京医科歯科大学歯学部を卒業、昭和41年3月に東京医科歯科大学大学院歯学研究科を修了され、その後、同大講師を経て、昭和44年6月に本学歯学部口腔外科学講座に助教授として赴任し、昭和50年4月に教授に就任、歯学部附属病院長などを歴任され、平成16年4月に名誉教授の称号が授与されました。

關山先生は、約29年にわたり本学口腔外科学講座を主宰し、開設間もない歯学部の臨床教育の推進と向上に大いに尽力し、歯学部第1回卒業生70名は歯科医師国家試験において合格率100%の成績をあげ

ました。また、第90回歯科医師国家試験委員長を務め、歯科医師の養成にも大いに貢献されました。

口腔外科学の研究分野においては、基礎的研究に基づく口腔癌の治療に取り組み、「動注化学放射線同時照射療法」により、治療成績を上げるとともに、患者さんの生活の質（QOL）の向上に貢献したこの分野の先駆者として、高く評価されています。

小西 育子 看護師・早川 幸信 主任診療放射線技師が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞しました

本学附属病院看護部の小西 育子さん（左）と診療放射線部の早川 幸信さん（右）は、平成26年度の文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞しました。

この賞は、国立、公立及び私立の大学における医学又は歯学に関する教育・研究若しくは患者さんの診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった方々を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、医学又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、昭和49年から実施されています。

小西さんは昭和51年4月に、早川さんは昭和52年4月にそれぞれ採用され、本学における医学教育・研究及び大学病院における患者さんの診療等を支える業務に長年にわたって精励し、本学医療の資質向上に貢献されています。



佐藤 丈才 リハビリテーション部士長が岩手県知事表彰 (保健医療功労) を受賞しました

本学附属病院リハビリテーション部の佐藤 丈才さんは、長年にわたり保健医療に関する団体の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成25年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

佐藤さんは、急性期医療の現場で理学療法士として業務に精励し、岩手県民の保健医療の貢献しているほか、本学附属循環器医療センターの心臓リハビリの第一線で、知識と技術を兼ね備えた実践者として、日々先進医療知識と患者によりそう臨床技術を磨き、循環器疾患を有する患者のQOL向上に努めてきました。



杉山 育美 薬学部創剤学講座助教が 第11回日本カテキン学会年次学術大会において優秀発表賞を受賞しました



薬学部創剤学講座の杉山 育美 助教が、11月21日～22日に東京で開催された第11回日本カテキン学会年次学術集会において、「悪性腫瘍に高発現するエピガロカテキンガレート受容体を標的とした薬物キャリアの検討」という演題名にて発表を行い、優秀発表賞を受賞いたしました。

受賞研究は、創剤学講座の研究主体であるDrug Delivery System (DDS) キャリアとしてのリポソームに杉山助教独自の視点より表面修飾を行ったものです。薬物キャリアとしてのリポソームの有用性は広く認められておりますが、そのほとんどは受動的ターゲティングによるものです。さらに有効性を増大させるため能動的送達も試みられていますが、杉山助教は、悪性度の高い腫瘍に高発現しているエピガロカテキンガレート受容体に注目し、リポソーム膜に修飾できるエピガロカテキンガレート誘導体を大阪大・産業科学研究所との共同研究により開発、これら誘導体を用いてリポソーム表面を修飾し標的指向性を高めることに成功しました。本研究は、DDSキャリアの新たな標的としてエピガロカテキンガレート受容体が有効であること及び新規誘導体により生体内における標的性を増大させたことが評価されたものです。この新規誘導体は複数あり、今後詳細な検討を加えることにより、さらに標的に優れたリポソームの開発が期待されます。

(薬学部創剤学講座：佐塚 泰之)

理事会報告——10月定例(10月27日開催)

1. 大学院学則の一部改正について

大学院入学金を廃止することとして、大学院学則の一部改正について承認

施行年月日 平成27年4月1日

2. 矢中新病院の基本設計について

創立120周年記念事業実行委員会において審議され、理事会に上申があった矢中新病院の基本設計について承認

シリーズ 職場めぐり

No.84

病理学講座機能病態学分野

平成26年度より病理学講座の先進機能病理学分野と病理病態学分野が統合され、講座名が病理学講座機能病態学分野になりました。矢巾キャンパスの西研究棟4階に位置しています。

スタッフは、本年度より新たに大学院生と研究生が各2名ずつ加わり、増田 友之 教授を筆頭に医局員13名、大学院生3名、研究生2名の19名です。病理あるいは実験に興味を持つ学生もおり、そういった意欲のある方には積極的に門戸を開放しております。

業務としては、肝臓をはじめとした様々な臓器の生検標本および手術標本の病理診断を行っております。また、遠隔病理診断システムによる遠隔地の病院の術中迅速診断も行っております。さらには、分子生物学的手法を用いて腫瘍や炎症の本質に迫るべく研究に励んでおります。

(大学院生 西谷 匡央)



看護部（緩和ケア外来）



緩和ケア外来は、通院中の患者さんご家族を対象に、がん治療と並行して経験する様々なつらさに対応する外来です。具体的には、痛みや吐き気、だるさなど身体症

状の緩和、患者さんご家族のこころのつらさへのケア、療養先の選択に関する相談、また大切なご家族を亡くされた遺族のケア（グリーフケア）も行っております。

当外来は、外来棟の3階で、月曜～金曜日の午前中に診察を行っております。診察室内は明るく、落ち着いて過ごせる個室です。また、診察に十分な時間をとっていますので、患者さんやご家族のお話を丁寧に伺えることが特徴です。主な担当スタッフは、緩和医療学科医師、がん看護関連の専門看護師・認定看護師、医療事務員ですが、必要に応じて緩和ケアチームメンバーも支援を提供できる体制を整えています。また、入院された時には、緩和ケアチームが病棟回診を行い、継続した支援が可能です。

患者さんやご家族の希望に沿った方法を一緒に考えていきます。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

(看護師 菅野 綾子)

お知らせ

平成27年 新年祝賀式

平成27年新年祝賀式を以下のとおり挙行政しますので、万障お繰り合わせのうえ、多数ご出席いただきますようお願いいたします。

■ 日時：平成27年1月5日（月）
午後4時～

■ 場所：創立60周年記念館8階 研修室

お問い合わせ先

企画調整課（7022）

岩手医科大学は 2017 年に創立 120 周年を迎えます



創立 120 周年記念ロゴマーク・スローガン

誠のあゆみ、
未来へつなぐ

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	菊池 初子
影山 雄太	江刺家和恵
松政 正俊	佐々木さき子
齋野 朝幸	米澤 裕司
小山 薫	佐々木忠司
藤本 康之	畠山 正充
佐藤 仁	大須賀志穂
成田 欣弥	武藤千恵子
山尾 寿子	野里三津子

編集後記

今年も残すところわずかとなりました。今年一年を振り返ってみると、佐村河内氏のゴーストライター騒ぎから、STAP細胞問題、泣きながら謝罪した野々村議員問題など謝罪に関する話題が今までの年以上に多かった一年だと思います（STAP細胞はまだ謝罪はないですが）。来年はそのような問題がないよう祈るばかりです。新自民党政権に少し期待しつつ、来年は皆様にとっても良い一年でありますように。

（編集委員 齋野 朝幸）

岩手医科大学報 第459号

発行年月日 平成26年12月31日
発行者 学長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

内科学講座消化器内科消化管分野 教授 松本 主之



カプセル大腸内視鏡について

2013年9月から、消化器肝臓内科が消化器内科肝臓分野と消化管分野にわかれしました。消化管内科は消化管（胃、小腸、大腸）と胆膵の疾患を担当しています。

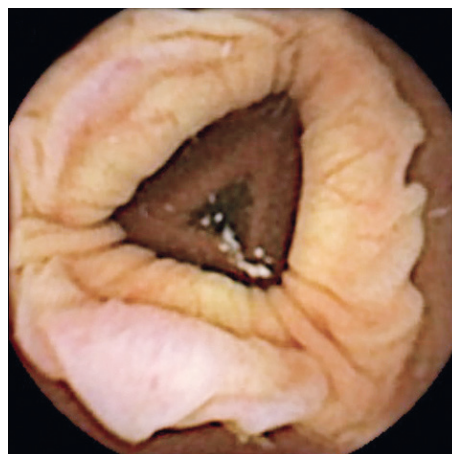
さて、消化管は癌が好発する臓器です。日本人の悪性腫瘍による死亡原因として、以前は胃癌が多かったのですが、胃内視鏡検査により早期胃癌が数多く発見・治療されるようになり死亡率は減少しています。これに対して、大腸癌による死亡率は増加の一途をたどっており、女性の悪性腫瘍による死亡原因として最も多くなっています。

では、大腸癌を早期に診断するためにはどうすればよいのでしょうか。現状では、無症状の段階で便潜血反応検査を施行し、陽性の方に精密検査を受けて頂くことが推奨されています。精密検査法として最も有用であるのは大腸内視鏡検査です。たしかに、大腸内視鏡検査は早期大腸癌の治療にも用いられる重要な検査法といえます。しかし、患者様にとって苦痛な検査となることがあるのも事実です。元来大腸は屈曲した管のような臓器であることに加えて、開腹術の既往があるとさらに

内視鏡挿入が困難となります。

最近、カプセル大腸内視鏡という新たな検査法が開発されました。カプセル内視鏡は2000年に小腸を観察する検査法として誕生しました。カプセルの形状をした内視鏡を飲み込み、消化管内を通過しながら撮像したデータを体外で受信し、コンピュータ上で解析する検査法です。大腸用に改良されたものは、解像度の向上に加えてカプセルの移動速度により撮影回数を自動調整するなどの性能を有しており、大腸病変の診断能は通常の大腸内視鏡に遜色ないとのデータが報告されています。

大腸内には便が存在し、内視鏡観察に支障をきたします。カプセル大腸内視鏡検査では、便塊を排除し大腸内をきれいな液体で満たすことが重要です。したがって、検査前および検査中に腸管洗浄液を多量（全量で約5L）に摂取して頂かなければなりません。また、本法で病気が発見された場合は、通常の大腸内視鏡を受けることになります。これらの点をご理解頂ければ、カプセル大腸内視鏡は、比較的苦痛が少なく診断能力の高い検査法といえます。

カプセル内視鏡
(10mm×30mm)

横行結腸の画像